

編 集 後 記

暑い夏が終わり、暖かな秋を迎えています。地球温暖化は現実のものとなっているようです。ダイオキシンを筆頭にした環境ホルモンがどうなるのか、その行方も見えないうちに、東海村の臨界事故により放射性物質・放射能の環境負荷も身近な不安材料となりました。一方、スタートを半年後に控えた介護保険制度をめぐる議論も盛んです。

本会誌12巻1号をお届けします。本号には最終講義3編，就任講演4編，原著4編，そして富山医科薬科大学医学会によるシンポジウム，学術集会，セミナーの記録が掲載されています。最終講義をいただいた北川正信教授，小泉富美朝教授，神郡博教授の3先生は本年3月31日で定年退官されました。先生方には開学ならびに看護学科開設以来，本会のために絶大なご尽力を賜り，まことにありがとうございました。

これからの時代，課題を大きく2つにまとめることができましょう。高度産業化と人口増加は表裏の関係にあります，そこから派生した2つの課題が地球環境問題・環境破壊と人口問題・少子高齢化です。だとすると，医学の課題は治療医学に加えて環境医学と健康医学への比重も大きくせざるを得ないでしょう。本会誌にその萌芽がうかがえると考えのですが，いかがでしょうか。今後，医学科と看護学科が，本誌をよりいっそう活用する形でさらに交流を密にすることにより，人類の歴史が要求する私達の果たすべき役割をよりたくましく背負っていけるのではないかと考えます。その時，大学をめぐる諸情勢がどのように変化しようとも，私達の存在は大きな期待を持って見つめられることになるでしょう。いっそうの投稿をお願いする次第です。

(加須屋 實)

編 集 委 員

三 崎 拓 郎 (委員長, 外科学)

小 川 宏 文 (生化学)

加須屋 實 (公衆衛生学)

倉 知 正 佳 (神経精神医学)

小 林 正 (内科学)

白 木 公 康 (ウイルス学)

高 田 正 信 (内科学)

高 間 静 子 (基礎看護学)

田 澤 賢 次 (成人看護学)

龍 村 俊 樹 (救急医学)

村 口 篤 (免疫学)

(アイウエオ順)